

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ゆたかに自律 たくましく自立 — 知徳体の調和のとれた人間性豊かな、実践力に富む生徒の育成	① 学習意欲を高め、学習習慣及び家庭学習の定着を図るための学力向上 ② 豊かな心と健やかな体を育む生徒指導 ③ 保護者・地域に開かれた学校づくりの推進

達成度	A: ほぼ達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である
-----	--

3 目標・評価

① 学習意欲を高め、学習習慣及び家庭学習の定着を図り、学力向上をめざす

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・研究授業、授業研究会の充実 ・校内研修の充実 ・若手職員の育成	・全教科で研究授業を実施する ・校内研修を充実させる ・県教育センター研修講座を全員受講する ・若手職員の指導・支援をおして全職員の力量の向上をはかる	・授業研究会を研修計画に位置づけ、全教職員が研究授業を最低1回は行う。 ・生徒指導の3機能を生かすとともに、言語活動を仕組んだ研究授業を実施し、全教職員で理解を深めていく。 ・年間3回程度の講師招聘による校内研究会を中核として、計画的に校内研究会を実施する。 ・県教育センターの研修講座を全教職員1回以上受講する。 ・教職経験3年未満の職員にベテラン職員を担当させ、授業や学級経営等の力量を伸ばすために、日々指導・助言を行う。	A	・全職員が県教育センターの研修講座を1回以上受講した。 ・全職員が1回の研究授業を実施することができ、公開授業を2回実施することができた。 ・「めあて」と「振り返り」を位置づけ、言語活動を仕組んだ研究授業を実施し、全教職員で理解を深めていった。 ・若手職員の力量をあげるために、学年職員で、また、同教科や校務分掌ごとに日々指導・助言を行うことができた。	・研究授業においては、年度当初に無理のない計画を立て、サポート会議を早目に呼び掛けるようにする。また、実施する時期が後期に偏ってしまったので、実施時期(月)を決めておく。
教育活動	●学力向上	・基礎的・基本的内容の確実な定着を目指した指導方法の改善 ・家庭学習の習慣化の促進 ・授業3分前着席及び授業前の「立腰」の実践 ・少人数・TT授業の推進 ・活用力の育成	・県学習状況調査の12月結果において、十分達成を100とみたときの本校の達成割合を国語、数学においては4月結果より、0.01ポイント上回る。また、社会、理科、英語については昨年度の12月調査より0.01ポイント上回る。全国・県平均を上回る。 ・1週間の家庭学習の平均時間が各学年の決めた時間の実施率を80%以上を目指す。 ・授業3分前の着席率を100%にする。 ・授業で「めあて」を明示し、「振り返り」の時間を設けると共に、知識を活用した活動を取り入れる。 ・個に応じたきめ細かな指導を行う。	・自主学習ノートの活用の仕方指導し、家庭学習の充実を図るとともに、生徒が復習など家庭学習に取り組みやすいように、各教科で宿題の内容や出し方を工夫する。 ・授業3分前の着席、立腰の呼びかけを総務等が行い学習の構えを作る。 ・数学や英語の授業では、全学年全クラスでTTを実施。 ・月曜の放課後や定期テスト前、長期休業中に学習会を実施する。 ・毎回の授業で、「めあて」を達成するための課題を提示し、生徒の活発な活動を促す。また、「振り返り」シート等を作成し、継続して学習の跡を残し確認する手立てを講じる。「説明」、「話し合う」活動を取り入れる。	C	・12月に行われた県の学習状況調査では、1年生国語、社会、理科は0.85⇒0.93、0.79⇒0.85、0.72⇒0.83と大きく伸びが見られた。しかし、数学、英語については4月、昨年度の12月調査の結果を下回った。また、2年生国語は0.79⇒0.94と大きな伸びが見られたものの、社会、数学、理科、英語については下回った。 ・年間を通して各学年の1週間の平均家庭学習時間の変化を見ていくと1年生は12.6時間から14.8時間になり、2年生は9.3時間から14.4時間、3年生は13.7時間から22.7時間と1週間の家庭学習時間の目標を設定していることでその目標を意欲しての活動ができていた。しかし達成率をみると50%未満のときもあり一人ひとりの学習時間のばらつきが考えられる。 ・生徒会で授業開始3分前着席の取り組みを行ったり、互いに声をかけ着席を促したりする姿が見られた。 ・授業の「めあて」の提示、「振り返り」については共通意識をもって取り組むことができた。しかし、「振り返り」の部分についてはさらに検討を行っていく。 ・理解に時間を要する生徒にはT2が対応するなどの対策を行ったことで、数学では技能面が高まるなどの効果が見られた。	・1時間の授業の中での活動内容をきちんと生徒に伝えるために今後も「めあて」の提示をしっかりと行っていく。 ・基礎・基本の定着が図られるとともに、技能面が高められるような課題に取り組ませる。 ・県学習状況調査の結果より「活用」に関する問題に課題が見られたので、ペア活動やグループ活動を取り入れて、自分の考えを深められるようにしていく。また、根拠を述べて考えをまとめる学習課題を設定していく。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実践	・積極的なICT活用	・電子黒板やタブレットPCなどを活用した授業実践を全職員が行う。	・サポートなどでより効果的なICT機器の活用について話し合う。 ・夏学校内研究会で、効果的なICT活用の実践交流会を行う。	B	・校内研の授業実践において、電子黒板やデジタル教科書を活用した授業実践ができていた。タブレットPCを利用した授業実践も数回行われた。 ・2学期に堪能な先生方による実践交流会を行うことができた。	・タブレットPCを活用した授業実践の機会を増やすために、活用法などを校内研究会で紹介する回数を増やす。これからの定期的な発表者を変えながら、実践交流会を実施する。
教育活動	○英語学習の充実	・英語の基礎・基本の定着 ・家庭学習の定着	・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 ・表現力の向上を図り、「話す力」「書く力」を身に付けさせる。 ・毎日計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・定期テストでは、基礎的・基本的な問題の正答率を70%以上とする。	・言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度とともに、表現の能力や理解の能力の向上を図る。 ・指導の目的を明らかにして、英文書写活動、基本対話活動をはじめとする学習や、コミュニケーション活動等に積極的に取り組ませる。 ・小テストの結果を、個別指導に生かす。	A	・各学年とも、言語活動に取り組ませ、表現の能力・理解の能力の向上に努め、一定の数値目標を達成した。 ・授業開始時に、辞書書写活動を取り入れ、書くことに慣れさせた。 ・毎週英文書写と音読の課題を課し、提出させた。 ・定期テスト後は、振り返り活動を行い、個別指導を行った。	・単元ゴールに身につけさせたい力と、達成するための言語活動を再度見直し、表現の能力と理解の能力の向上を図る。 ・毎週回収する定期的な宿題、授業に関する宿題、長期休業中に宿題等を確認し、より英語力をつけるための宿題を課す。 ・テストの振り返りを、指導に必ず位置付ける。

② 豊かな心と健やかな体を育む生徒指導

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標、学校経営ビジョン、本年度の重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者への周知を図り、特に「学校教育目標」の認知度を70%以上に上げる。	・職員会議、全校集会、保護者会、学校HPで周知を図る。具体的な取組を学校便りや校内の掲示物等で知らせる。 ・「自律・自立」を促す取り組みを進め、教職員の生徒に対する指導・支援の在り方を、ケーススタディーを通して見直す。	A	・「学校教育目標」について、各種通信、学校HPや保護者会等で機会があることに意識的に呼び掛けた。	・今年度以上にあらゆる機会を通して、意識して「学校教育目標」をアピールしていく必要がある。
教育活動	●心の教育	・道徳の時間の充実 ・人権・同和教育の充実 ・ふれあい道徳の実施	・居場所が確保され、居心地のよい学級集団作りを行う。 ・人権週間および人権集会を充実させる。 ・人権・同和教育につながる道徳教育を年間を通して実践する。 ・「ふれあい道徳」として、道徳の授業を地域や保護者に年1回(6月)公開する。	・Q-Uの結果をもとに個別の支援を行い、学級満足度のポイントを上げる。 ・生徒が主体的に活動する学級活動及び人権週間の活動を計画・実施する。 ・「ふれあい道徳」の授業内容を保護者・地域の方々に広報し、道徳の授業への理解を深めてもらい、家庭・地域での教育力の向上につなげる。	B	・Q-Uの5月と11月を比較して学級満足度の割合が3年生では減少し、2年生ではほぼ変わらず、1年生ではやや増加していた。 ・人権集会では、人権委員会を立ち上げ、委員が中心となって企画・運営を行った。朗読劇や、人権作文発表、「いじめゼロ宣言」の確認等、充実した集会にすることができた。 ・「ふれあい道徳」を年間計画に位置づけ、保護者参観の中、全学級で実施した。	・個別への指導を充実させるために、生徒同士や生徒と教師とのコミュニケーションの場を増やし、「私たちの道徳」や構造的エンカウンターの手法を用いて計画的に指導を行う。 ・さらに人権意識を高めるために、生徒会活動を活性化したり、掲示物や放送活動等を工夫したりする。 ・人権集会と平和集会の内容を今年度の取組を基本に工夫し、充実したものにする。
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめの予防と早期発見 ・職員の共通理解の促進 ・組織的な対応の確実な推進	・定期教育相談や定期的な生活アンケートを実施し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決を図る。 ・連絡掲示板を活用した迅速な情報の共有化を図る(毎日) ・生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会を通じた組織的な対応を行う。	・毎月の生活アンケートで、予防および早期発見を行う。 ・Q-U(年2回)で、生徒の状況を把握し、個に応じた指導を行う。 ・毎月1回情報確認の場を設け、共通理解を図る。 ・関係機関との連携を図って対応にあたり、保護者や地域との信頼関係を高める。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意させ、共感の人間関係づくりを進める。また、生徒自らがいじめ撲滅への取り組みができるようにする。(本校では生徒会による「いじめゼロ宣言」がある。)	B	・毎月の生活アンケートで生徒の実態をつかみ、その週内に学年で対応し、早期発見・解決ができた。 ・適宜、生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会を開き、組織的な対応と早期解決を行った。 ・連絡掲示板を活用し、情報の共有化と共通理解を図った。 ・学校行事や生徒会活動等、生徒の活躍の場を数多く設けることで有感を高め、共感の人間関係をつくることができた。	・職員間の「報告・連絡・相談」が十分でない部分があったため、掲示板を使って確実な情報の共有化とデータ化を行う。 ・いじめ認知・認知をいじめ対策委員会で協議し、最終的には校長判断のもと、適切に認知し、早期に解決・解消していく。
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成 ・けが・事故防止 ・生徒の体づくり	・朝食摂取率が95%以上にする。 ・睡眠時間8時間以上を80%以上にする。 ・病欠、けが等による保健室利用者数を昨年度より5%減らす。 ・スポーツテストの結果が県の平均値を上回る。	・生活習慣調査をおこない、結果をまとめる個々の改善点を見直す。 ・「保健便り」「給食便り」で食事、睡眠、休養等の大切なことを生徒に伝える。 ・授業の準備運動の中で、体起こし、握力をつけるようにストレッチや授業・授業後活動を取り入れる。 ・昼休みに多くの生徒がグラウンドで運動ができるようにボールなどの用具を充実させる。	B	・給食後の備みかきの実施率は1学期66%⇒75%、2学期41%⇒49%と昨年度と比べるとアップし概ね達成できている。 ・保健室の来室状況は630人⇒696人(3/13現在)で目標達成に至っていない。 ・スポーツテストの各学年の項目の総数に対して、県平均を上回った項目の割合は40.2%と半数を下回っており、目標を達成できていない。	・健康教室については、講演等の事前や事後にも内容を取り扱い、より理解を深めるようにする。 ・基本的な生活習慣を確立するため、「保健だより」や「給食だより」をより充実させ、家庭と協力を図る。 ・保健体育の授業だけでなく、部活動やそれ以外の時間でも体を動かす習慣をつけさせることで体力の向上を図る。 ・体づくり運動を利用して自分に合った運動の計画を立てる。
教育活動	○読書指導、学校図書館教育	・朝読書の充実 ・図書館を活用した学習活動の推進	・全校で図書貸し出し数10,000冊以上を達成する。 ・各教科等で、年間に1回は図書館を活用する授業を行う。 ・延滞者をなくし、円滑な貸出業務を遂行する。	・生徒に読ませたい本と生徒が読みたい本のバランスをとりながら、貸し出し本の充実を図る。 ・新しい本の紹介を「図書館だより」などを通して、積極的に取り組む。 ・読みたい本の貸出を保証するために、リクエストカードを作成し、活用する。 ・貸出時に、返却日を明記しおしりを渡し、返却期日の徹底を図る。	A	・全校の図書貸し出し数は15,000冊を超え、本の貸し出し数が大幅に増えた。 ・まだ全教科ではないが、教科によっては図書館を活用する授業が行えた。 ・貸出時に、返却日を明記しおしりを渡し、以前より延滞者が減少した。 ・貸出数は増えたが、貸出数の多い生徒と少ない生徒の差があるので、その差が縮まるようにしていきたい。	・全教科で、年間に1回図書館を利用する授業をすることはできなかった。各教科において活用できるよう、年度当初の教科部会などで、意見を述べてもらう。
教育活動	○生徒指導	・生徒の理解と指導の充実 ・教育相談の充実 ・基本的な生活習慣の確立 ・学校生活状況の把握と指導 ・特別支援教育の充実 ・自己肯定感を育てる学級・学年づくり	・折あるごとに「挨拶・返事・校歌」についての例示や呼びかけを行い、集会時に評価し、改善し高めていく。 ・生徒指導部会を核として、組織的な指導体制を構築する。 ・「立腰」指導の徹底。 ・「生活アンケート(月1回)」を実施し、早期発見した事実をその日のうちに解決していく。 ・SCやSSWとの連携を密にする。 ・学校行事や授業、係活動等、生徒の「出番・役割・承認」の場面をつくり、自己決定感・自己存在感・共感の人間関係を育成する。 ・「グリーンカード制度」を導入し、生徒の日常のよい活動に対して教師がコメントで提示し、称賛・承認する。 ・積極的な生徒指導を行い、学校生活の全ての場面で「勇気づけ」の言葉かけを行う。 ・「3点固定」により家庭生活の安定を図り、「ネットワーク5原則」の遵守によりネットトラブルやネット依存を防ぐ。	A	・朝の会や帰りの会、授業時の「立腰」が定着しており、落ち着いた雰囲気が出てきた。 ・集会時には必ず「挨拶・返事・校歌日本一」の話題に触れ、それをバロメーターとして自己評価させ、それぞれ改善・成長させることができた。その成果が日頃の生活の場面に表れ、校内では大きな挨拶の音が響いている。 ・学校生活の全ての場面で「出番・役割・承認」の場を数多く設けた。その生徒の活躍する場面を「グリーンカード」によって視覚的に称賛し、自己決定感・自己存在感・共感の人間関係を育成することができた。 ・家庭学習調査カード(緑カード)に「3点固定」を明記することで家庭生活の安定を図った。またサイバー犯罪防止教室に併せて「ネットワーク5原則」を指導・啓発し、ネットトラブルやネット依存を未然に防いだ。	・職員間の「報告・連絡・相談」が十分でない部分があったため、掲示板を使って情報の共有化とデータ化を行う。また、小学校からの引継ぎを含め、各個人のデータを「生徒指導記録簿」として作成し、次年度以降の対応に役立てる。 ・不登校生徒の削減ができなかったため、よりきめ細やかな個別対応とともに、各場面における共感の人間関係づくりをさらにしていく。	
教育活動	○安全指導	・交通事故や生活事故の予防教育 ・命を守り、大切に教育	・交通事故(加害・被害)、生活事故ゼロをめざして取り組む。 ・防犯教室や性に関する教育、家庭教育講座を計画的に実践する。	・交通事故ゼロを達成するために、安全教育、自転車点検、交通マナー指導を定期的に安全協会等を活用し実践する。 ・通学時の蛍光タスキの着用率を向上させる。 ・自分の身を守るための学習(防犯教室、性に関する指導・講演会、SNSやサイバー犯罪から自分を守る講演会)を行い、未然防止に努めさせる。	B	・今年度も、5月に神埼警察署の方に来ていただき、防犯と交通安全の話をいただいた。危険性を理解し、安全に登下校できている生徒もいる。しかし、車が来ていのかどうかの確認不足により、接触事故にあった生徒が複数いた。 ・今年度は、学校で決められた自転車ルールに違反した件数が14件であった。	・地区生徒会では、危険箇所を挙げさせ、地図にまとめる。この取り組みにより、生徒の安全意識を高めていきたい。 ・生徒に配っている「中学校生活のしおり」の中の安全に関する内容を見直し、注意すべきポイントについて生徒が理解できるようにしたい。 ・全校集会などでは、写真などを見せ、具体的にイメージさせながら安全に登下校できるよう指導したい。

③ 保護者・地域に開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	・保護者・地域へのフリー参観デーの実施 ・PTA活動との連携 ・家庭・地域との連携 ・学校教育活動の情報発信	・授業参観、フリー参観デー、学期末PTAなどへの参加率が40%を超える。 ・PTA専門部会との連携を図る。 ・学校HP、学校情報メールの充実	・学校便りに地域にも同報する。 ・フリー参観デー及びフリー参観週間を開催し、保護者だけでなく地域の方にも案内し、参加してもらおう。 ・PTA活動に教職員の協力体制の充実を図る。 ・地区懇談会や町の青少年健全育成会議へ参加する。 ・活用度の高い学校HPを作成する。	A	・今年度も6月のフリー参観デーは、小学校と同日開催であったため、多くの方に参加してもらえた。しかし、保護者のアンケートに協力していた数が少なく、積極的な声掛けの必要があった。 ・PTA活動に対する教職員の協力体制はできており、関わりのあった全ての活動において、親睦を深めることができた。 ・地域への情報提供は、学校便りに留まらず、学校HPの工夫や改善が求められる。	・6月のフリー参観デーは、小学校との同日開催を次年度も行っていき。 ・保護者参観は、クラスによって参加率が大きく違うので、担任からの呼びかけを一層強化する。 ・魅力ある学校HPをつくり、地域への配信を行う。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

全体的には、良好だと思われる。「学校満足度」についてのアンケートでは、生徒・保護者とも、満足度が90%を超えた。しかし、最重要課題の学力向上については、家庭学習の習慣づけの取り組みや、読書量の増加等で全体的には成果が見られるが、達成率に個人差がみられた。また、県の学習状況調査においても、学年によって、課題となる教科・項目も異なる。生徒の活用力向上教育の実践活動を今一度共通理解し、共通実践に繋げていかなければならない。安全指導について、本年度は生徒の自転車と自動車による接触事故が7件発生している。事故の原因に、環境整備が必要となる場合があるが、生徒の危険予知能力を高め、危険回避につながる指導が必要である。学校運営全体としてみれば、生徒は落ち着いた学習環境のもと、明るくけじめのある楽しい学校生活を送っている。しかし、生徒たちを取り巻く環境が刻々と変化している状況で、教職員同士がお互い「報告・連絡・相談」を密にして、全教職員が共通理解のもと、生徒の「出番・役割・承認」を意識した指導を積極的に進めていく必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目